

◇ 専門部会記録

令和5年度 両沼・耶麻中学校教育研究会 第一次研究協議会 記録

期日：令和5年7月 27日（木曜日） 会場：猪苗代町立猪苗代中学校

※北会津支部・耶麻支部・両沼支部・南会津支部合同で開催

部会名	美術 部会	部会長名	耶麻：遠藤 学（裏磐梯中） 両沼：土橋康弘（昭和中）
【研究主題】 多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む			
【副 主 題】 多様な価値観を身に付けさせる工夫			
指導助言者	なし		
発 表 者	全員		
司 会 者	山口 功（河東学園）		
記 録 者	長谷川裕美（若松三中）		

No.	参 加 者 名	所 属 校	No.	参 加 者 名	所 属 校
1	古川 雅秀	北会津中	10	山口 功	河東学園
2	遠藤 学	裏磐梯中	11	佐治 浩明	猪苗代中
3	土橋 康弘	昭和中	12	岩下 千恵	喜多方一中
4	上野 一幸	檜枝岐中	13	星 八千代	下郷中・荒海中
5	埜渡さえ子	若松一中	14	池上久美子	只見中
6	浅倉佐知子	若松二中	15		
7	長谷川裕美	若松三中	16		
8	金澤 文利	若松四中	17		
9	五島 尚子	一箕中	18		

今後の美術部会について

○ 美術ゼミナール 8月 4日（金）午前：郡山市 午後：裏磐梯

参加者：岩下 千恵（喜多方一中）

○ 中教研県大会 10月 5日（木）いわき大会：いわき市立草野中学校

参加者：岩下 千恵（喜多方一中）※本人は希望していますが、学校の状況を

確認し、場合によっては、支部長の遠藤が

参加します。

○ 2次研 10月17日（火）若松四中予定（第二候補 河東学園）

○ 支部造形作品審査会 11月30日（木）喜多方一中にて

※後日、耶麻地区すべての中学校に詳細をメールします。

○ 県造形作品審査会 12月 1日（金）郡山市にて

支部代表者：岩下 千恵（喜多方一中）オブザーバー：須田 磨美（喜多方二中）

※オブザーバー不参加の際は、支部長の遠藤も参加したいと思いますが、当日

裏磐梯中を会場に、県中体連スキー大会事務局会が予定されているため、参加者

については後日ご相談します。

A班

① 笠原さとし 別紙参照

〇 価値観と多様性 → 主題設定の工夫

● 研究実践例より

タブレットでの検索を可とした。 → 調べて見てそのまゝにしよう。

多様性 } 指導者の
多様な価値観 } 容認の許容

→ オリジナリティーを出すための
指導者の授業展開の工夫が
必要。難はある。

4人班

● テーマは、各自が自由にオマトへを選ぶ。

→ ミーティングタイム：話し合い活動の機会(2回)

● 1年生で自己を表現することに対して 難はあったか？

→ 参考作品を提示させている。自己を表すオマトへは
は数多く出せる(5個以上)

● 考えのステップを踏むと、モベ馬食までい。

● 多様な価値観に触れる機会 → 広げる場合と固定してしまう場合

② 長谷川裕美 ● 参考作品参照

● 研究実践例より 2年生 抽象表現

多様な価値観：自分が考えたテーマを自分以外が考える。

自分以外の人々の発想に触れる機会を強制的に

つくる → 必ず触れる

主題 アイデア
ステップ 4人班 鑑賞

③ 佐治浩明 ● 参考作品参照

〇 多様な枠組みの中から、生徒が考える多様性を重視 (1年生)

→ 実践例) 配色の練習：マス(仮面)の着彩

多様な価値観：個性

個性の尊重

制限を設けずに見えてくる → 多様性

④ 岩下千恵：別紙参照

● 研究実践例

〇 生徒に考えさせる、前に基礎要素の徹底させることと価値観

↑
の前の段階で「鉛筆表現」作品制作 → 達成感

鉛筆表現例は話し合い

(A4サイズ)(1時間)

活動を組み込む

→ 鉛筆に触れる機会を固定する

- 2次研(合同)について
- 10月17日(火) 河東学園中学校 (PM)
- 持ち方 1) 県大会の報告 研究協議(題材協研) ー 版画
 - ー 弘化の美術館
 - ー 鑑賞
- ↳ 版画の実技研修(リトグラフ)
- 美術ゼミ 長谷川 裕美(若三) 8月4日
- 県大会 長谷川 裕美(若三) 10月5日
五島尚子 (一重)
- 県造形作品審査会 若松二中(支部)
↳ 代表 長谷川(若三) オブザーバー 佐治(猪苗代)

◆ 研究主題、副主題

「多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む」

造形活動はどうすればよいか」

1年次(令和4年度):「造形的なスキルを身に付けさせる工夫」 ※会津大会

2年次(令和5年度):「多様な価値観を身に付けさせる工夫」

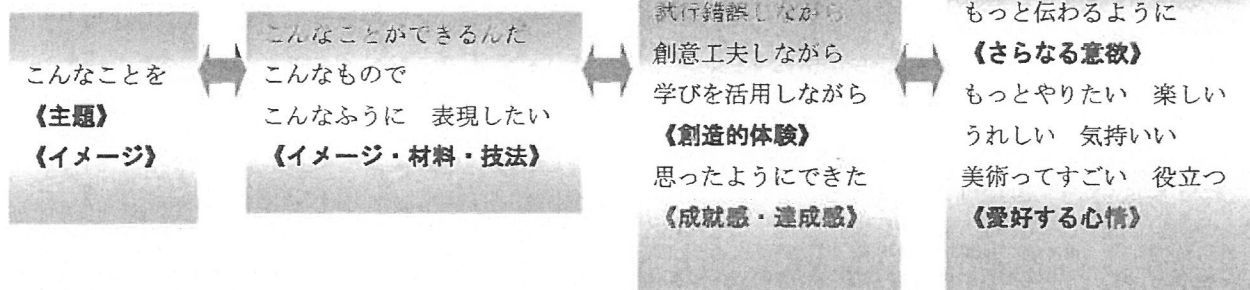
3年次(令和6年度):「美術の広がり」と自己実現」

◆ 主題・副主題のとらえ方

《視点：キーワードから》

★キーワード「多様な見方・感じ方」「心豊かに創造する力」

◎ 普段、美術教師としてこのような授業を展開したいと望んでいること。



生徒一人一人に このような豊かな創造活動を体験させ それを積み重ねていく

(造形的な見方・感じ方を働かせ 美術の資質や能力を獲得しながら)

◎ 心豊かに創造する力～自己実現の喜び(これまでの研究)をともなって得られる力 キーワード

多様な 見方・感じ方	・人とは違う自分が	表現したいことを	見つけられた	喜び	成就感 達成感 自信 自己肯定感 美術の有用性の体感
		感じ取れる	見つけられる	喜び	
	(この材料で	こんなふうに)	イメージを持てた	喜び	
		思ったように	できた	喜び	
・純粋に	色や形、材料、表現(作品)の美しさやよさや	なんとかかんとか	やれた	喜び	
	その体験の楽しさ・心地よさを味わえた	みんな(相手)に	伝わった	喜び	
	・多様な表現・個性(自分とは違う他者)と出会えた	伝わった	喜び	喜び	
				喜び	

★キーワード「多様な価値観」(副主題)⇔「多様な見方・感じ方」(主題)

自己の自覚 ⇔ 他者の自覚・他者意識(価値の多様性の自覚)

友だちは?先輩は?他の時代・地域の表現者は?

じゃあ自分は・・・

○それぞれの個性(感性・審美眼)を生かしながら 自覚しながら

自己肯定できる体験 = 他者を認める(多様な価値を認める) の積み重ね

～最終的に目指すところは～

○美術って素敵だ・すごい・楽しい・おもしろい・深い・役に立つ・必要だ

美術を愛好し

学びを生かし

新たな価値と出会い 多様な価値を認めつつ

○自分らしい・こだわりやあこがれを持って・心地よい

気づき・共感し・大切にしながら

自ら環境・社会(他者を含む)に働きかけ

豊かな人生を形づくっていく

そのためには・・・手だての工夫（研究内容・方法）

○個々の思いや願い 育まれてきた感性

の発揮しやすい に根ざした 自己選択・自己決定の場がある
教師ひとりよがりでない（生活経験・学びの状況・欲求を踏まえた）
生徒の欲求のみに迎合していない（体験・学ぶべきことを踏まえた）
多様な価値（表現）の発揮できる 題材の設定 の工夫

●各段階で 多様な 生徒個々の意図やイメージ 表現の工夫 を
引き出せるような 自覚できるような
他者に認められたと思うような 他の価値や豊かで多様な表現を示唆するような
個別の支援（言葉かけ）の工夫

○感性を揺さぶり、表現意欲を喚起するような

固定観念を壊し、新たな価値 確固たる（普遍）価値と流動的（変化）な価値 を見いだせるような
主題や材料、技法、表現（作品）との出会わせ方 の工夫

●「やれそう、思ったようにできた！ やれた」基盤となる

造形的な力（発信力）が確実に身につく具体的な指導の工夫

教材（ワークシート等）、資料（参考作品等）の内容・提示の仕方

スモールステップ、意図的グルーピングなど指導法や学習形態 の工夫 など

◆実践事例（上記●に関連？）

『素描の基礎』（7年）～

・大まかに形をとらえる鉛筆の使い方
⇒・暗闇に浮かぶとうふを描いてみよう！
⇒・発想を広げ、とうふを変身させよう！
⇒・円柱からの発想

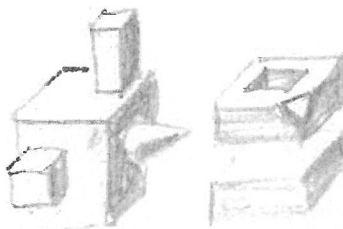
制作の途中／制作後の相互鑑賞

表現の違い 発想の違い

☆発想のきっかけ☆

プラスの発想

・いろいろな形をくっつけて
どこに？ どんな形を？

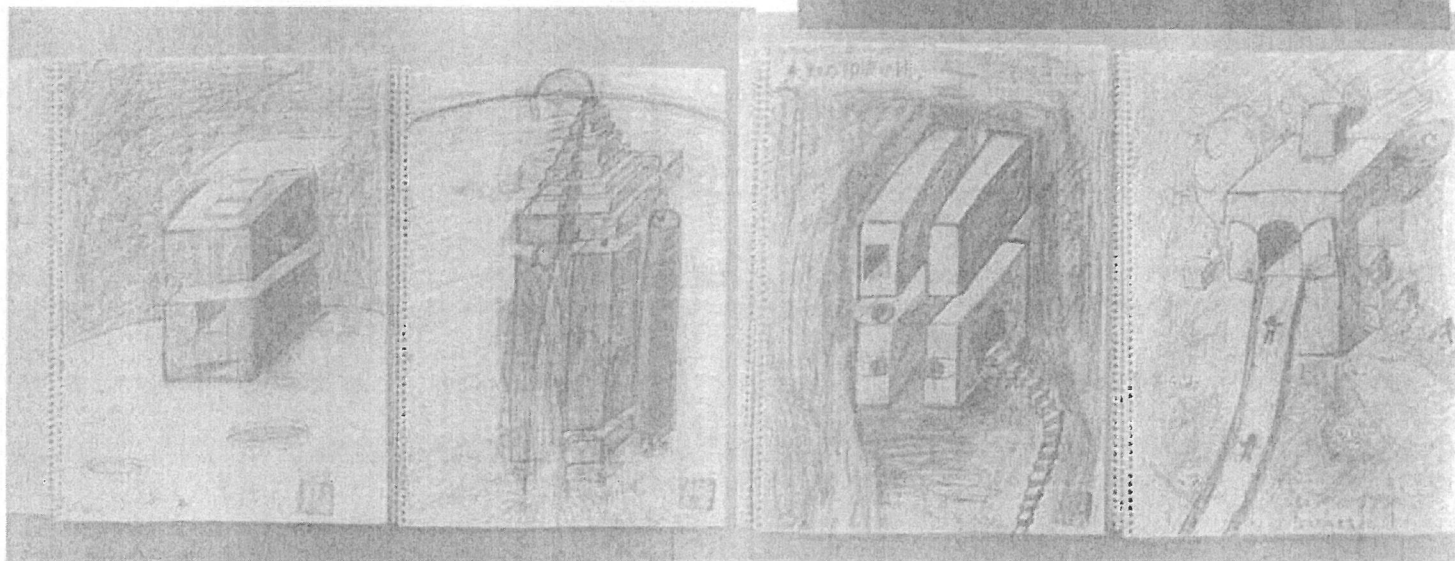


マイナスの発想

・切ってみる 削ってみる
縦に？横に？ どう？
・穴をあけてみる
どこに？ どんな穴？

自分なりの物語性

ストーリー性を
もたせて・・・



1、研究主題・副主題

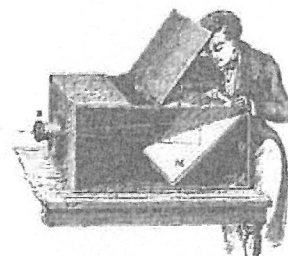
研究主題：多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力をはぐくむ造形活動はどうすればよいか

研究副主題：多様な価値観を育むはぐくむ指導の工夫

カメラ・オブスキュラ（カメラ・オブスクラ）＊1

2、研究主題副主題のとらえ方

- ・多様な価値観を育む→なぜ→育むとどうなる？
- ・多様な価値観をもって創造すると心は豊かなのか？
(フリーダカロの生涯を見つめて)
- ・基本としての絵画表現（なぜ絵画は本物そっくりに描く必要性があったのか）



1年生の美術の表紙：フェルメールの真珠の耳飾りはカメラ・オブスキュラ（ピンホールカメラ）を使っています。

＊1 6世紀ころになるとピンホールの代りに凸レンズが装着され、17世紀に入ると現在のカメラの原型といえる暗箱型のカメラ・オブスキュラが完全な遠近法による絵を描くための“道具”として普及する。（世

界大百科事典 第2版の解説）

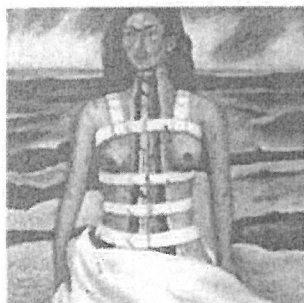
3、1) 研究内容 3学年自画像「今を生きる私へ」の指導で研究実践

① 多様な価値観を味わえる鑑賞教材の工夫

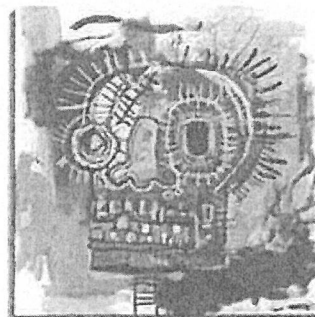
：美術教科書2・3下、ピカソ・東山魁夷・ダリの10代の自画像

クレメンテ・フリーダカロ・バスキア（現代の作家）

- ・現代の多くの絵画における画家・作家は写真のように描くことにはあまりこだわらない。



FRANCESCO CLEMENTE



- ・むしろ写実主義を突き抜けることがまた絵画表現の一つであるという考え方があるということ。

② 生徒の価値観を広げる鑑賞参考鑑賞資料：写実的に描く（本物そっくりに描くこと）木下晋の言葉

私が桜井さん（ハンセン氏病の）を描くのは、桜井さんを本当に「美しい」と思うからです。

素直な気持ちで、この絵を見て気持ちが悪くなったり怖いと思われたなら、それは私の画力（表現力）がまだまだ未熟だからです。

追加資料：宮崎駿「もののけ姫」、ドリアン助川（哲也）「あん」



*ハンセン病は、らい菌によって、主に皮膚や末梢神経が侵される慢性の病気です。この菌の毒性は非常に弱く、感染しても発病することはきわめてまれです。1943年のプロミンに始まる治療法の発達によって、確実に治る病気となりました。現在では、リファンピシン等を含む、短期間の多剤併用療法が広く行われています。治療法がなかった頃には、この病気は「らい」あるいは「らい病」と呼ばれ、不治の病と考えられた一方、顔面や手足などの後遺症がときには目立つことから、恐ろしい伝染病のように受けとめられてきました。そのために、わが国は「らい予防法」によって、全ての病者を療養所に隔離収容するという厳しい対策を取りました。しかし、隔離政策をとらなくても世界中でハンセン病は減少しており、隔離を定めた予防法は1996年に廃止され、普通の病気として一般医療機関で治療されることになりました。厚生労働省

*「優生」とは良質の遺伝形質を保つようにすること。

「私が私として生きるとは何か」

生徒の皆さんへの問いかけ（表現内容の明確化にあたり）

生徒にとって大切なことは「自分は何なのか」自分を確かめること

*自分自身と違った「もの」の考え方をすることは大切なことである。クラスメイトの作品、教科書の作品などを見て「いいね」と言わせることが、多様な価値観を認め合うことなのだろうか。「いいな」と感じたものは真似したくなりそれを真似る（流行り）。が、むしろ「嫌だな」「変だな」と違和感を感じたり、目を背けたくなることのほうが、その人の本質に近い答えであることも少なくない。つまり「多様な価値観を育む」とは甘いものでも苦いものでも「好き嫌い」をなくし、なんでも飲み込む力をつけて栄養とさせてあげることなのだ。

生徒の表現力の評価は難しい。基本授業に参加し、10時間のカリキュラムの中で制作した作品については評価は「密度」で行った。

⑤生徒の活動の記録方法の工夫・蓄積

東北、福島、会津における伝承文化の美術教材化

- * 流行とは何か。傾倒に陥らないための不易流行とは何か。異文化とは何か。伝承とは何か。

《研究主題》

「多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む造形活動はどうすればよいか。」

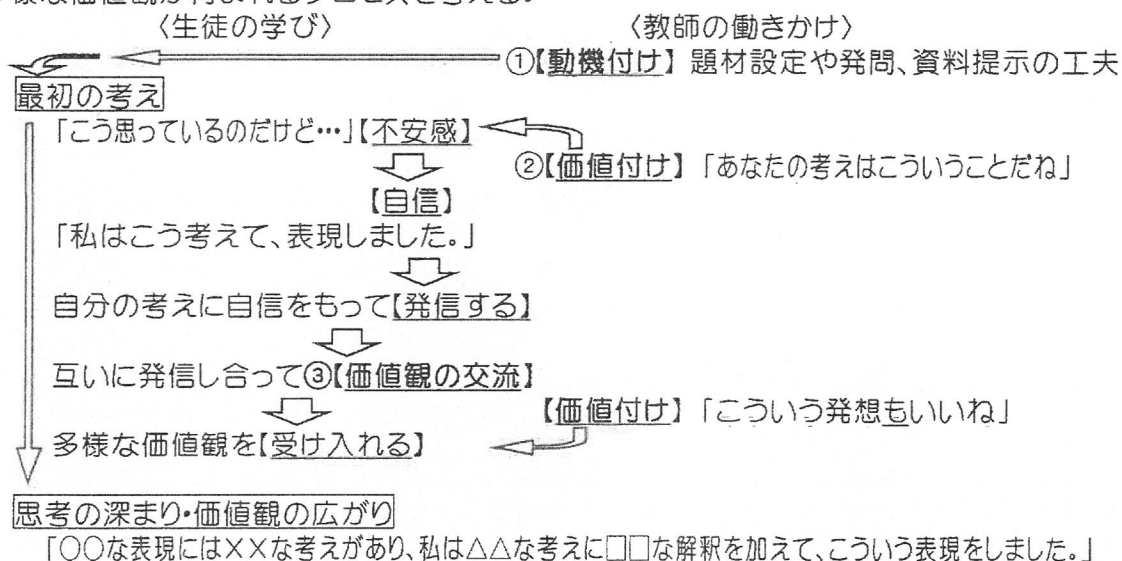
- ・令和4年度副主題 「造形的スキルを身につけさせる工夫」
- ・令和5年度副主題 「多様な価値観を育む指導の工夫」
- ・令和6年度副主題 「美術の広がり」と自己実現」

○昨年度の取組み

スキル(思考のスキル+テクニック=手段・手法)が、表現の幅を広げた。

○本年度の取組み

多様な価値観が育まれるプロセスを考える。

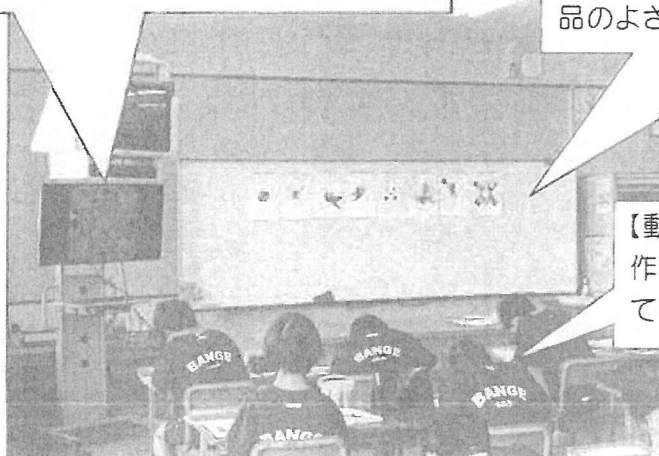


このようなプロセスで、生徒は様々な制作体験の中から多様な価値観を育んでいくのではないか。

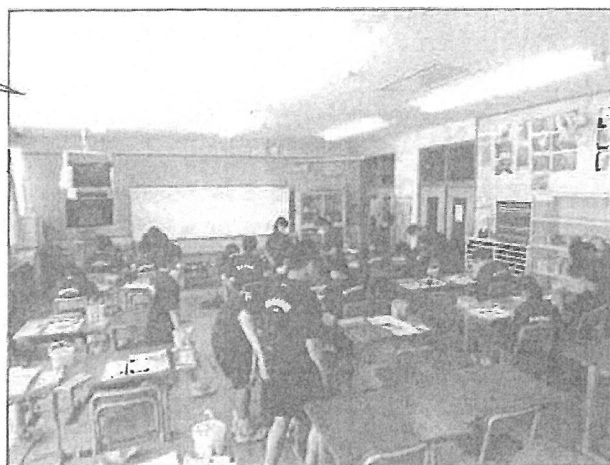
①【動機付け】の一助として、過去の作品をスライドショーで提示。

制作初期の作品に②【価値付け】して、作品のよさや工夫に気づかせる。

【動機付け】→制作→【価値付け】→制作を経て、自分の作品に自信をもっているとよいのだが…



③【価値観の交流】として、互いの作品について話し合う時間。(5～10分)



*インプット (主体的に情報収集する。様々な考えや価値観に触れる。)

*アウトプット (自分の思いを言葉にする。再構築する。自分の考えで表現する。)

Google サイトの活用 (インプット)

題材に合わせてページを作成。関連サイトへの Link・過去の生徒作品等から、生徒は主体的な情報収集が可能になる。



抽象彫刻 (アウトプット)



思いや考えを表現することを焦点化したとき、抽象作品は取り組みやすい。形の価値を言葉にすることで、作者の思考が読み取れる。

「夜の岬に消えた黒」
こんなに吐き出したい声を
どこに吐き出せばいいのだろう…。
ある夜 黒は
静かな岬に消え入った。
色なんかない この作品は
吐き出された 黒のようで
自分自身をリセットしてくれる。



令和5年度 中教研北会津・耶麻・両沼・南会津支部研修会
美術部会資料

支部番号 12 南会津支部
只見町立只見中学校 池上久美子

1 研究主題・副主題

『多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む造形活動はどうすればよいか。』

- 平成4年度副主題
「造形的なスキルを身に付けさせる工夫」
- 令和5年度副主題
「多様な価値観を身に付けさせる工夫」
- 令和6年度副主題
「美術の広がり」と自己実現」

2 主題・副主題のとらえ方

主題について

- 多様な見方や感じ方

生徒達は偏りや狭い価値観の中で、制作してしまうことが多い



教師が幅広い活動を通して、意図的にこれらの価値を壊す
(題材やテーマの与え方の工夫)

- 心豊かに創造する力

創造する力

「感じたことや考えたことなどを基に想像力を働かせながら自分らしい発想をし、豊かな表現を構想する力」であり、「生活や社会に生きて働く美術の能力の育成」が求められている力である。

副主題について

- 多様な価値観を身につける

個々の思いを表現する ⇨ 思いを持つ ⇨ 自分らしさ

他の価値を認める ⇨ 自分との違い

イメージの捉え方、価値観の違い

4 研究の進め方・実践の見通し等

生徒の実態を踏まえながら授業研究や題材選定し研究を進める。

(1) 研究内容

- ① 身に付けさせたい造形的スキルについて
- ② 造形的スキルを身に付ける題材について
- ③ 1人1人がスキルを身に付ける指導・支援の工夫について
- ④ 身に付けた造形的スキルの生かし方について
- ⑤ 生徒の変容の把握と評価の工夫について

(2) 研究方法

- ① 生徒の実態、地域・社会のニーズの把握
- ② 様々な実践事例の収集・分析

- ③ 研修や美術教師同士の情報交換
- ④ 鑑賞活動・言語活動の工夫
- ⑤ 生徒の活動の記録方法の工夫・蓄積

5 研究実践

(1) 第1学年「自己紹介」 5～6月

① 指導計画（総時数8時間）

② 学習内容

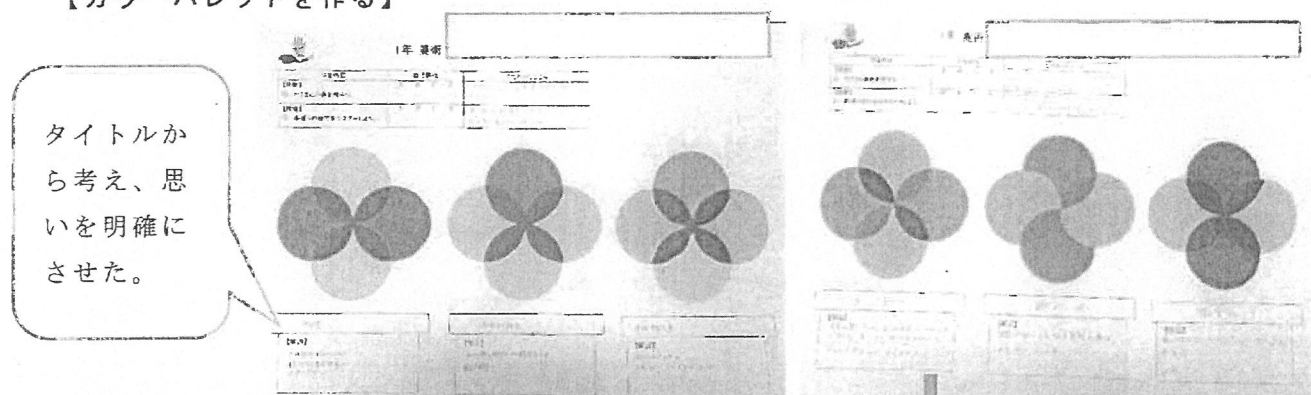
色の学習（色の3原色、色の3要素、色の対比、色の特徴）

自分を分析して、自己紹介のカラーパレットを作る。

③ 指導にあたって

小学校の時は、たくさんある色から好きな色を選ぶことが多く、混色する体験が少ない。図画工作科から美術科に移行する4月に色彩について学ぶことは、生徒達の意識改革と今後の絵画やデザインの表現に繋がるので、時間がかかるが重要な題材だと考える。また、自分を分析しての色作りなので、自分らしさが表現できてよかった。

【カラーパレットを作る】



(1) 第1学年「〇〇をつかむ」 7月

① 指導計画（総時数4時間）

② 学習内容

パステルコンテを使って、「〇〇をつかむ手」を描く。

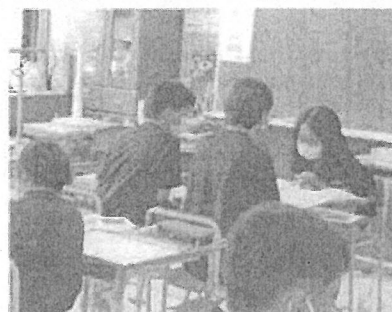
- ・ 個人テーマを決めて、思いを明確にする。
- ・ 大まかにスケッチする。
- ・ 面を意識し、塗り絵にならないよう立体的に描く。

③ 指導にあたって

パステルコンテは、初めて経験する生徒が多かった。しかし、面の描き方やぼかしが容易にできる画材なので、基本的な描き方の学習では友達と違った表現を認め合い、意欲的に取り組んでいた。2学期に実際、つかむ手を描く予定。



自分のものと比べる生徒



描き方を教え合う生徒

令和5 年度 中教研第一次研美術部会資料（両沼支部）

会津美里町立高田中学校 庄司 美保

研究主題「多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む造形活動はどうすればよいか」

副主題本年度 令和 4 年度 「創造的なスキルを身に付けさせる工夫」

令和 5 年度 「多様な価値観を育む指導の工夫」

令和 6 年度 「美術の広がり」と自己表現」

1 主題・副主題について

（1）主題について

「多様な見方や感じ方を深め」とは、選んだ手段を生かし表現する過程を通してその時点の答えを探す。一つの技法の中からも個性や受け止め方の違いも楽しめる。「心豊かに創造する力を育む」とは様々な考えを知り自分の考えも持ち、表現の意味や価値を見つける。中学校時代の自分の見方の変化に向き合い考えを探し続け、将来の自分の内面発信につなげることだと思う。

（2）副主題について

創造的なスキルを身に付けるには、制作方法や材料経験の時間の確保が必要である。一枚の紙から今はPC・タブレット使用まで材料用具は幅広い。紹介、助言者の一人が教師であり、周りの生徒の考えも出し合える時間は貴重な授業時間でもある。オリジナルの制作方法見方の発見があれば将来の職業、趣味、生きがいにもつながり創造する生き方の学習としての一提案であらばと思う。

2 研究の進め方

前年度の主題研修報告会では、地域の伝統文化の継承も取り組みに織り交ぜてはとなり、各校それぞれの実態状況の報告、新しい試みと会津地方に残る工芸品の技法等を紹介する実践について話し合った。

今年度の主題研修報告会では、多様な見方や感じ方を深めるための題材や技法、学習目標の観点の具体化、学びの機会の提供が大切であると考えた。

3 研究実践

- 1、 題材名 2年 工芸「木彫コースターをつくろう」
- 2、 生徒の実態とめざす生徒像

生徒の実態	めざす生徒の姿（このような姿になってほしい）
・ 始業時も全員揃わず、準備物が揃わない。 ・ 生徒は明朗だが、学級は自由に発言できる雰囲気ではなく、分からなくても質問しない。 ・ できない生徒への支援、個性のある生徒を認めようとする雰囲気がある。 ・ 自分の考えを持ちつつ、個性を尊重し、他の人を認められる考え方がさらに持てるとよい。	・ 導入では、鑑賞作品に対して自分の考えや感想を持ち、自分の言葉で文章化し発表する。 ・ 発想では、提示作品を参考にし、テーマを考えながらや個性を生かす作品を考える。 ・ 構想では3つのコースターを組み合わせた主題、配色なども考え、主題に合うアイデアを考える。 ・ 下描きでは既習の方法を生かしながら下描きし、彫る所彫り方、使いたい色を考えた計画をする。 ・ 彫り方では陽刻陰刻の違いを理解させる。 ・ 鑑賞では、作品発表を通して自分らしさを作品と言葉で表現し、発表を聞くときには作品の良さを見つけたり助言したりする。

3、題材の指導計画

(計 11 時間)

- (1) 参考作品を鑑賞し、学習目標を理解する。．．．．．0.5 時間
- (2) 主題を決め、3 枚並べたときのコースターの構想を考える。．．．．．1.5 時間
- (3) 板面に下描きを描く。．．．．．2 時間
- (4) 彫り方の種類を確認し、彫る所を決めて彫刻する。．．．．．2 時間
- (5) 構想をもとに板面に彩色、研磨をする。(本時 1 / 2) ．．．．．2 時間
- (6) 仕上げの水性ニス塗り、コルクシートを貼る。．．．．．2 時間
- (7) 作品の発表と鑑賞をする。．．．．．1 時間

4、本時のねらい ～ (達成できたかどうかの視点)

配色や構成を考えながら、板面に彩色、研磨ができる。

- (1) 資料を見ながら、既習の構成美の要素や配色の工夫について振り返ることができる。
- (2) 自分の納得のいく配色で彩色できる。

準備物：(生徒)教科書、美術資料、スケッチブック、材料セット、筆記用具

(教師)学習カード、参考作品、絵の具、筆、紙やすり

4 成果と課題

(1) 成果

1 年 3 学期時に基本的な配色や構成について学んだので、それらを復習しながら進めた。今回は板に直接飾り彫りするためか、緊張感を持ち続け制作している姿が見られた。彫刻刀は久しぶりであったが、力加減や絵の具の濃度なども考えて取り組んだ。各段階の目標を明確にしたことで生徒は自分で進めることができた。全面彩色、部分彩色、彫りだけの作品など、自分が納得して制作する生徒もみられた。

(2) 課題

絵の具セット、彫刻刀ともに、小学校のときから続けて使える用具を最近は続けて使用している。自分の思いのこもった、また日常生活に何らかの形でつながる題材を取り入れ、各学年の実態に合わせた創作の幅が広がる取り組みを今後も考えていきたい。

作品 1

作品 2

1 研究主題・副主題

「多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む造形活動はどうすればよいか」

令和4年度「造形的スキルを身につけさせる工夫」

令和5年度「多様な価値観を育む指導の工夫」

令和6年度「美術の広がり」と自己実現」

2 価値観と多様性について（webからの引用）

価値観とは、どんなことに価値を見出すかという人の感じかたや思想のことです。価値観は人によってさまざま、何に重きを置くかなど物ごとの捉え方によって変わってきます。

私たちは成長する過程で、さまざまな価値観に触れ、自分なりの価値観をつくり上げていきます。その人がもともと持っている性格だけでなく、親からの影響や育った環境、時代背景、国に根付いている文化や地域性、その人が経験した出来事なども大きく影響します。

自分とは価値観が違う他者を「面倒くさい奴」と思いがちです。しかし、自分とは違う他者は、自分が見逃していたものや、自分が感じてこなかった痛みに気づかせてくれます。私たちの認識や感性を広げてくれます。その意味で多様性にはそれ自体価値があります。多様性を受け入れるためには、相手に伝えたいことを言葉にする、コミュニケーションをとり、相手を理解しようとし、互いに違いを認め合うこと大切だと思います。

人種や身体の特徴、感じ方や考え方、そして得意、不得意。これらがみな異なるからこそ、私たちは互いに助け合うことができ、新しいアイデアを生み出すことができ、結果的に種として繁栄することができのです。つまり、私たちひとりひとりの多様さは、この社会全体にとって、必ず意味があり、不可欠なものなのです。

3 研究実践

（1）題材名

1 学年「文字っておもしろい ～自分をオノマトペで表すと～」デザイン

（2）題材設定の理由

オノマトペとは、ものや人の様子や感情、あるいは動物の鳴き声や物音を、模倣したものである。脳に直接働きかけ、イメージを喚起させやすいため、円滑なコミュニケーションを取る上で大きな助けとなっている。また、小説や漫画では、その作品独自のオノマトペ（擬音）が読者により強い印象を与え、大きな魅力のひとつとなっている。

日本語はオノマトペの数が多い言語で、4,000～5,000語あるとも、他言語の3倍から5倍あるとも言われている。文字の組み合わせによる音の響きの多様さにあわせ、フォントの工夫による表現の多様さから、自己を表現するためのツールとして取り上げた。例えば同じ「ドン」であっても、それは太鼓の音の「ドン」なのか、肩がぶつかった「ドン」なのか、主人公が胸をはった「ドン」なのかで、表現のありようが変わってくる。そんな微妙なニュアンスを表現できるオノマトペを使い、自己を表現させることで、自分の内面、そして他者の内面が可視化され、自己理解、他己理解つながるのではないかと考えた。

(3) 指導過程

① 文字についての鑑賞、基礎知識	1時間
② レタリング練習及びオノマトペの考案	2時間
③ レタリングテスト及びオノマトペの決定	1時間
④ 下描き及び転写	2時間
⑤ ペン入れ・効果線の指導	2時間
⑥ アクリルガッシュの基礎技法	1時間
⑦ テーマカラーの着色	1時間
⑧ 仕上げ、鑑賞	1時間
	計11時間

「ミーティングタイム」と称し、自分の作品案について説明する時間、それを聞いてアドバイスする時間を設け、多様な考え方(価値観)を知る機会を設けた。

(4) 成果と課題

この学年の生徒たちは活発で、話し合い活動にも積極的に取り組むことができる。こちらで指定した4名グループで活動させたが、いわゆる「小学校の枠」を超えて活動はできたと思う。アドバイスの仕方等の例を示したうえで、生徒同士がよりよい作品になるようにお互いに意見を出し合い、そして最良のものを選べるようにと思い指導した。が、結果的に生徒が選んだものよりも、教師から見ると違うものの方がアイディア的によりよいこともあり、指導の難しさを感じた。

また、参考資料収集のためタブレットでの検索を可としたが、1学年147作品のなかで、似通った作品が散見された。あくまで参考とさせ、オリジナリティを出させたいところであったが、ここも指導が難しいと感じたところである。発想が苦手な生徒においては、それが救いとなる部分もあると感じるため、一概に検索不可とするのではなく、指示の仕方を工夫することで今後対応していきたいと思う。

オノマトペで表そう!

1年__組__番 氏名_____

1. 自分のことをオノマトペで表すとどんな感じ? できるだけたくさん書き出してみましょう。

2. 1つにしぼります!

3. どうしたらもっと文字の感じがはっきり伝わるかを考えて、できるだけたくさんアイディアスケッチしましょう。

研究主題・副主題

研修主題 『多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む造形活動はどうすればよいか。』

副主題 令和5年度 「多様な価値観を育む指導の工夫」

1 主題や副主題について

多様な見方や感じ方を深めるには、多様な作品を鑑賞することにより作品から受け取る情報量を増やすことができる。そうすることにより自分なりに理解できることが増えていく。自分なりの「納得」を見つけることができると思う。自分の意見や感情を持つことで、制作や鑑賞も楽しむことができるのではないかと考える。また、グローバル化が進む中、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることが一層求められている。このような価値観に対応していくためには、人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観を前提として、コミュニケーションをとり他者と協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察する力を育成することが必要であると考えます。

2 研究実践の内容

① 本題材は『見つめると見えてくるもの』である。

② デッサンの基本としてまず鉛筆だけでグラデーションやいろいろなタッチや明暗について学習した。〔資料1〕

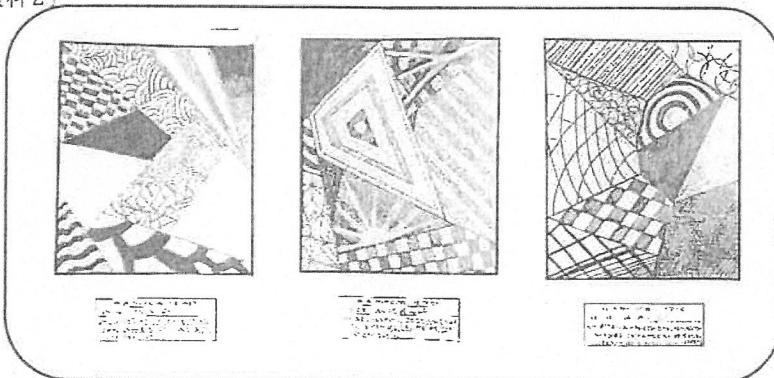
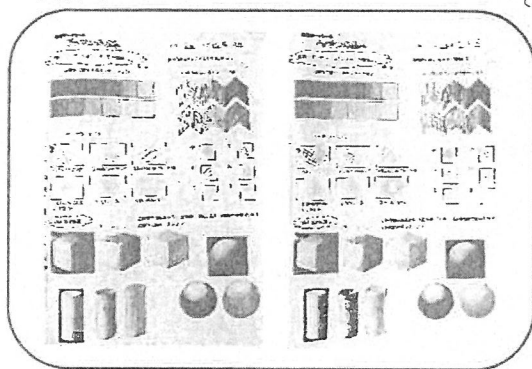
③ ②で学んだことを使って作品制作をした。条件として

・8個以上枠をつくる。

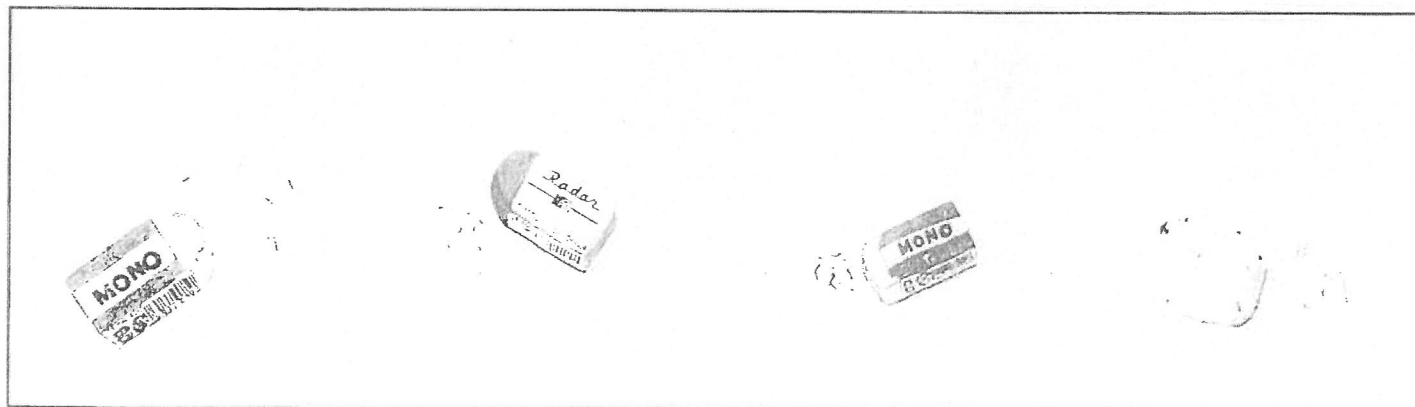
・一カ所黒く塗る。〔資料2〕

〔資料1〕

〔資料2〕



④ 自分の見慣れた消しゴムをよく見て描き、色鉛筆で色を塗った。



3 研究結果の考察

誰でもが使ったことがある鉛筆を使って取り組ませることにより基礎的な能力を伸ばすことができた。また、明暗の濃さやタッチの色々などを使って制作する場面では、友達と話しあったり、自分の考えを相談したりする場面もあった。鉛筆だけで一つの作品ができ、意欲的に取り組むことができた。消しゴムのスケッチでは、よく見て光の方向なども考えて明暗も使い分けることができた。どの生徒も最初は『消しゴムなんか描けない』と言いながらも集中して完成させることができた。生徒の感想も『自分がこんなにも描くことができるなんて。みんなもうまい。細かい所までよく見ている』などの声があがった。友達の意見を聞きさらに自信につながったようである。

4 反省と今後の課題

本校1学年のアンケートでは美術が好き、やや好きを合わせると約90%の回答を得た。あまり苦手意識がないようであるが自信を持って取り組むことができなかった。

今後、主題にあるように多様な見方や感じ方を深めるには、いろいろな作品を鑑賞し、それらの作品から受け取る情報量を増やすことで自分なりに理解できることが増えていく。それが、自分なりの「納得」を見つけることであり、納得を見つけることができれば、自信につながるのではないかと考える。今後、友達の作品や他学年の作品なども鑑賞する機会を増やして行きたいと考える。

